



たから
宝くじは、
みんなの暮らしに
やくだ
役立っています。



てんじしせつ
リスザル展示施設



宝くじドリ〜ムジャンボ絵本



いっかいよう
集会用テント



いちりんしゃ
一輪車



たから としょかん どうぶつえん
宝くじは、図書館や動物園、
がっこう こうえん せいび
学校や公園の整備をはじめ、
さいがい つよ まち
災害に強い街づくりまで、
く やくだ
みんなの暮らしに役立っています。

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
<https://jla-takarakuji.or.jp/>



クラジックって楽しいな!

(合唱にまつわるエトセトラ)

晴れたる青空
ただよう雲よ、
小鳥は歌えり
林に森に〜♪♪♪

博士、歌詞以前に
音程が...

ドイツ語の
原曲歌詞は、
まだ勉強中
なんじあぁあ!



公益社団法人国際音楽交流協会
〒602-0894 京都市上京区上御霊仲町 457-10
TEL : 075-414-1311
URL : <http://www.imea.or.jp>



一般財団法人
日本宝くじ協会
<https://jla-takarakuji.or.jp/>



このパンフレットは、**宝くじ**の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

海外の

少年合唱団を ちょっぴり紹介!!



合唱の起源は教会と関係が深いからやはりヨーロッパで盛なんじゃな!



世界のあちこちで数えきれないほどの大小さまざまな合唱団が存在しますが、ここでは少年合唱団について紹介したいと思います。

古典派時代(18世紀末～19世紀初頭)にはモーツァルトやハイドン、ベートーヴェンなどの作曲家が活躍し、オーケストラや室内楽、オペラなどの音楽ジャンルが発展した時代ですが、同時に少年合唱も発展し、広く愛されるようになりました。多くの宮廷や教会で少年合唱団が結成され、多くの音楽学校や音楽院が設立されることで、少年たちが音楽を学ぶ機会が増えた時代でもありました。

特にモーツァルトは少年合唱を多くの作品に取り入れその美しい声を最大限に活かした作曲家でもあります。そしてその後続くロマン派時代には音楽の自由な感情表現が求められるようになっていきます。

日本でも戦後、たくさんの少年合唱団が設立され、コンクールがあったり社会貢献事業や文化活動に積極的に参加し音楽文化の発展に貢献しています。また国内外を問わずコンサートを行い、高い技術力と豊かな表現力で多くの人々から支持を受けています。

海外に目を向けると、ヨーロッパを中心に数えきれない程の少年合唱団や聖歌隊があり、歴史に名前が残る作曲家や世界で活躍している音楽家達もかつて少年合唱団に所属していたことなども少なくありません。

そのレパートリーもクラシック音楽からポピュラー音楽、自国の民族音楽や民謡に至るまで多様な音楽ジャンルを取り入れています。

そしてその活動は、有名な指揮者やソリストとの共演やCDを発売するなど、世界で活躍できる実力を持った合唱団から、地域のコミュニティを中心に地元のイベントや祭りなどで歌声を披露し、地元で根付いて活動する合唱団まで様々です。

子どもたちは合唱団に入ることで、音楽的な才能を育てるだけでなく、礼儀やふるまい、また表現力やコミュニケーション能力、あるいはリーダーシップや協調性なども身につけることが期待されています。将来、音楽家や指揮者、教育者、あるいはそれ以外の職業に着く子供たちもいます。音楽家になることだけに焦点を置くのではなく、合唱団の活動を通じて人間形成にいかに関与するかをどの合唱団も考えています。

合唱の魅力

合唱の経験は皆さん一度はあるのではないのでしょうか。学校で授業の一環として、また、合唱コンクールに参加したり、中には大人になってからママさんコーラスで楽しんでる人もいます。合唱は子どもから大人、高齢者に至るまで気軽に楽しめるという大きな魅力があります。そしてみんなでハモれたときはそれはもう鳥肌がたつほど心が震えるというか、そんな経験を持たれる方も多いのではないのでしょうか。また、楽譜が読めなかったり、音楽の経験がなくても楽しむことができるのも合唱のいいところです。

合唱が持つ最大の魅力は、「異なるたくさんの声が重なって生まれる音色の美しさ」だと思います。周りの音を



聞きながら、自分のパートの音を歌うのは時に難しいこともありますが、これは一人で歌うのとまた違う楽しさや感動を体験できます。それぞれのパートに分かれて違う音を歌うことで、重厚で迫力あるハーモニー(響き)が生まれ、逆に少人数では繊細で心洗われるようなハーモニーになります。一人一人の歌声は小さくても、たくさん集まって溶け合うことによって広がりや深みのある響きが生まれるのです。

合唱とは、複数の人が複数のパートに分かれて歌う形式のことですが、では、重唱や斉唱との違いはなんなのでしょうか。重唱は各パートを受け持つのは一人ずつです。つまり4パートあれば4人ということになります。そして斉唱はユニゾンとも言って全員が一つのパートを歌うことです。

合唱には、声の性質によって様々な分類があります。主な分類は以下のようになっています。

- 女声三部合唱……女性の3つのパートからなる合唱(ソプラノ、メゾソプラノ、アルト)
- 男声四部合唱……男性の4つのパートからなる合唱(第1及び第2テノール・バリトン・バス)
- 混声4部合唱……男声と女声の4つのパートからなる合唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス)
- 児童合唱……二次性徴以前の男子の場合、ボーイソプラノとして女性パートを歌う場合がある

合唱の歴史

ヨーロッパの歴史や文化について語るとき、特に音楽の世界において、やはりキリスト教の存在を無視することはできません。

近年、癒し音楽として注目を集めているグレゴリオ聖歌は、西洋教会音楽の基礎を築いたもので、中世の初期に当たる8世紀から9世紀頃にかけてヨーロッパで生まれ、以降カトリック教会の典礼や祈りの場で歌い継がれてきました。単旋律で歌われる無伴奏の聖歌であり、シンプルでありながら非常に美しい旋律が特徴です。通常、楽器の伴奏なしでラテン語で歌われます。

女人禁制のしきたりが強かった教会の音楽であることを反映して(女子修道院などの特殊な例を除き)、男声の独唱ないし合唱によって歌われることが多いです。

また、自由なリズムを持つことが多く、典型的な拍子にしばられません。これは歌詞の自然なアクセントに合わせて歌われるためであり、祈りの言葉が音楽に溶け込むような効果を生み出します。

グレゴリオ聖歌が用いられたクラシック作品としては、ベルリオーズの「幻想交響曲」、リストの「死の舞踏」、ラフマニノフの「パガニーニの主題による狂詩曲」などがあげられます。

ルネサンス時代

14世紀頃から始まるルネサンス時代には、ヨーロッパ各地の都市国家でヒューマニズム(人文主義)が盛んになり、建築や文学を筆頭に文化が大きく変化します。

前述のような中世ヨーロッパは教会支配が強く学問や生き方まで教会が支配し、自分の自由な表現などというものは認められない時代でしたが、世俗の言葉による文学作品が登場、そして音楽も例外ではありませんでした。リズムやハーモニーについて新たなスタイルが提唱され、作曲技法や三和音の概念が確立されました。中世では考えられなかったような自由を、個人が謳歌できる時代の始まりです。

宗教改革

16世紀初頭の宗教改革では、カトリックの神学者だったドイツ出身のマルティン・ルターが、伝統的に一枚岩だったカトリックを内部から揺るがしました。カトリックに抵抗して立ち上げられた教派で、ルター派もそこに含まれるプロテスタントとカトリックの対立構図を生み出し、ヨーロッパ全土を二分したのです。

ルターは、聖書のドイツ語訳をはじめ、カトリックに対抗し新たな挑戦を始めました。それ以前は、ラテン語を読める聖職者をはじめとするエリートだけが理解できれば良いという考え方から、聖書はラテン語で書かれていました。ルターはこの考え方にメスを入れました。一般大衆である信徒の意志を尊重し、彼らが自ら神と向き合って生きてゆくべきであると考えたからです。そこで聖書を日常語であるドイツ語に翻訳し、

神様、どうか歌が上手くなりますようにアーメン!



万人が聖書の言葉を理解できるようにしたのです。

また、礼拝における讃美歌の導入もこの時期に行われた大きな改革の一つです。カトリックの礼拝で歌われるのはラテン語歌詞のグレゴリオ聖歌が中心でした。従って、歌うことができたのは聖職者や、特別なトレーニングを受けた聖歌隊等、一部分の人たちだけでした。しかしルターはここでも、信徒一人一人が直接、讃美歌の歌唱を通じて神を賛美することができるように、ドイツ語歌詞の讃美歌を取り入れました。また、これらの讃美歌には、一般大衆に馴染むように、わかりやすく、親しみやすいメロディが多用されました。更に、これら讃美歌は単旋律のグレゴリオ聖歌と違い、各パートが合わさって美しいハーモニーを奏でました。まさに、合唱の起源です。

ピックアップ合唱団！[海外編]

◆ウィーン少年合唱団(オーストリア)

かつて所属していたハイドンやシューベルトをはじめ世界の音楽界で活躍している人材をたくさん輩出しています。

インスブルックのヴィルテン少年合唱団のメンバーを、1498年に神聖ローマ皇帝が宮廷礼拝堂の少年聖歌隊設立の際、ウィーンに連れてきたのが始まりと言われています。

1918年の第1次世界大戦終結とともに一旦解散の危機にさらされますが、3年後に宮廷音楽隊の総長に任命されたヨーゼフ神父が経営手腕を買われたことがきっかけで1924年には「ウィーン少年合唱団として公式に団体として

創設され私立の全寮制学校として専門的な音楽活動がなされてきました。1948年以降になってアウガルテン宮殿の大きな敷地内に寄宿舎、学校および練習場が建てられました。

(修道院に附属し寄宿生活を送りながら音楽を学んだり学校に通ったりする合唱団は他にもたくさんあります。)

現在は民間の少年合唱団に再編され、10~14歳の100人程度が4つのグループを編成。交代で約3カ月間海外公演に出かけ、ウィーンに残されたグループが毎週日曜日に王宮礼拝堂のミサで聖歌隊として歌うという伝統が守られています。これらのグループ名として卒業生のシューベルトやハイドンあるいは元指導者であったブルックナーなどの名前がつけられています。

かわいい制服も合唱団の魅力ね!



バロック時代(17世紀初頭~18世紀半ば)

この時代の一番の特徴といえばオペラですが、オペラやオペレッタのように世俗的な内容に対し、オラトリオ(聖譚曲)はキリスト教的題材をもとにした宗教作品で、劇的、抒情的な歌詞を題材にした音楽劇です。このオラトリオは、オペラのような舞台装置や衣装を使って演技をすることがなく、コンサートホールや教会で演技なしの演奏会形式で行われます。主役を演じるソリストに重点が置かれるオペラに対して、オラトリオは合唱に重点が置かれていることも特徴の一つです。

また、18世紀は、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルに代表されるように、「聖」と「俗」という対照的な題材を取り入れた作曲家が台頭した時期でした。

オラトリオの代表作品として、ヘンデルの「メサイア」、ハイドンの「天地創造」、メンデルゾーン「エリヤ」などがあげられます。

◆聖トーマス教会少年合唱団(ドイツ)

1212年に創設された、世界で最も歴史ある少年合唱団です。1212年のアウグスチノ会トーマス修道院の創設をその起源とし、現在までトーマス教会を拠点に活動しています。団員はトマーナー(Thomaner)、合唱団を指導する音楽監督(カントル)はトーマスカントル(Thomaskantor)と呼ばれ、JSバッハは27年間にわたって合唱団を率い、青少年たちと同じ宿舎で寝泊まりしながら、毎週日曜の礼拝で歌う教会カンタータや『ヨハネ受難曲』『マタイ受難曲』などを書き上げこの教会で初演しました。

◆ドラッケンズバーグ少年合唱団

南アフリカ共和国の国内だけでなく、世界中から集った10~15歳の少年たちが、全寮制の音楽学校で寝食と学び舎を共にします。この合唱団は、当初より合唱団として設立されたわけではなく、学校生活に適應できない子どもたちが、寝食をともにしながら社会生活を学ぶための学校として始まりました。

合唱団は、黒人、白人、インド系の少年たちからなる多様なメンバーで構成されていますが、異なる肌の色の子どもたちが一緒に歌うことが国家の制度として禁止されていた、アパルトヘイト廃止以前の時代から、黒人生徒を含んだ混声による合唱を続けています。1992年ポーランドで開催された「世界少年合唱団フェスティバル」では、並み居る名門に競り勝ち「最優秀賞」の栄冠に輝きました。

この学校はプロの声楽家や音楽家を養成することを目的とせず、あくまでも心身の健全育成に主眼を置いています。従って、卒業生の進路は様々で、音楽家以外の道に進む生徒も多く、また、学校としてもプロの音楽家になることを奨励しているわけではありません。

聖歌やクラシックだけでなく、ミュージカル、ポップス、アフリカ音楽など、レパートリーは多岐に亘ります。また、演奏に合わせて手拍子、太鼓、ダンス等も取り入れ、聴衆を楽しませるような工夫も凝らしています。多くのアルバムもリリースしており、非常に高い評価を受けています。

夢を掴んで! (三重県津市)

◆セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校 合唱部

三重県津市にある私立中高一貫校のセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校は、現在は三重県内で唯一の女子校です。同校には音楽の専攻課程はありませんが、「部員一人ひとりが生き生きと合唱を楽しむこと」を目的に合唱部が活動しています。同合唱部は国際音楽交歓コンサート2023三重公演に出演し、イタリアのピアニスト、モドゥーニョさんとの共演で、「群青」を披露し好評でした。

ところで、同氏は国立ヴェッキ・トネリ音楽院の教授ですが、同音楽院が中心となり、ネットを活用した指導法によりイタリアのオペラを世界各地に広める POLIMNIA というプロジェクトの総括責任者も務めています。これは、約一年をかけて世界中の提携先である音楽学校や音楽団体にオンライン指導を行い、最終的に各国において実際に公演を行うというものです。これらの提携先として、アメリカ、フランス、ドイツ、イギリス、イタリア、ベトナム、リトアニアの音楽院等が選ばれましたが、わが国唯一の提携先としてセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校



(合唱部)が選ばれました。

合唱部を指導する伊藤氏が、「今回のプロジェクトのお話を初めて伺ったとき、信じられない思いでした」と言われるように、部員の皆さんもとても驚いたそうです。モドゥーニョ氏曰く、「技術面だけではなく、指導者と部員が一つになって、和気あいあいと“音楽”を楽しむ姿と、津の皆さんのあたたかい心に感動した」とのことでした。合唱部にとって「夢を掴んだ」瞬間ではないでしょうか。

その後、同合唱部は国際音楽交歓コンサート2024三重公演にも出演し、11月にはイタリアから来日されたモドゥーニョ氏、アンドレオーリ氏(バヴァロッチが晩年、活動を共にした指揮者、ピアニスト)、そしてロシアのオペラ歌手スターシャ氏と、POLIMNIA事業のリハーサルを行いました。「普段身近に感じられないイタリア語に触れることができ新鮮でした」、「歌唱に関するアドバイスからイタリア語の発音まで、至れり尽くせりでご指導いただき、あつという間に4時間が過ぎていきました」、「嬉しさ半分、心配半分の状態でしたが、いざお会いし練習を始めると、とてもフレンドリーに発音や歌い方などを教えてくださいました」、「今回のリハーサルで私は、音を楽しむのは世界中の共通言語だと改めて感じました」等、部員の皆さんは様々なことを感じました。また、伊藤氏は「提携団体のほとんどは音楽を専門に学ぶ機関ですが、その中に本校のような専門知識のない素朴な中高生の合唱団体が参加させていただくことでどのような音楽が生まれるのか、私自身とても楽しみにしています」と感想を述べられました。最終公演を成功させて全国の合唱団体に夢と希望を見せてもらいたいです。



国際音楽交歓コンサート2024三重公演アーティスト、地区主催者(井村屋グループ株式会社)の皆さんと一緒に

東日本震災を乗り越えて!(福島県南相馬市)

◆MJCアンサンブル

MJCアンサンブルは南相馬市内の小中学校で合唱部の廃部が相次いだことがきっかけで2009年6月に設立しました。指導者の金子氏によると、MJCアンサンブルは、部活動やサークルと違い、子供たちの「歌いたい」という思いから自然発生的に出来た合唱団で、コンクール入賞などを競うのではなく、南相馬市の子供たちの合唱文化を絶やさないことを第一目標にしています。



それぞれのメンバーが学校で部活動などに所属しており、全員が揃って練習する時間が

なかなかとれないため、ネットを活用した自主練習を通じ、集中してパフォーマンスを向上させるという方針を徹底しています。東日本大震災でメンバーが全国各地に避難するなど、様々な困難を乗り越えて活動を継続し、震災後の公演活動はウィーン少年合唱団との共演をはじめ、国内外において280回に届こうとしています。

昨今の少子化による団員数の減少、さらにコロナの大流行による致命的なダメージを受けながらも、今年設立15周年を迎えました。また、国際音楽交歓コンサート2023南相馬公演に出演し、市内小学校の生徒たちと一緒に「世界がひとつになるまで」を、また、ロシアのオペラ歌手スターシャ氏との共演で、「花は咲く」を披露しました。



「花は咲く」共演動画はこちらから▶

前回の「音楽家にまつわるエトセトラ」面白かったよね! スターシャちゃんのユーチューブも見たいよ! スターシャちゃん、歌が上手くてビックリしちゃった!

私のチャンネル見てくれたの! どうもありがとう! チャンネル登録もお願いね!? 少しずつだけど、これからもたくさんの曲を歌っていくからまた、見に来てね!!

読者の皆さんは楽しんでくれたかの? 本誌を読んだ感想や、今後こんな内容を取り上げてほしいなどの意見があればぜひ教えてほしいぞ! 皆さんと共に楽しいパンフレットが作れば、ワシも嬉しいんじゃ! ワシへの連絡は hakase@imea.or.jp へ、メールを送っていただければいいんじゃぞ!

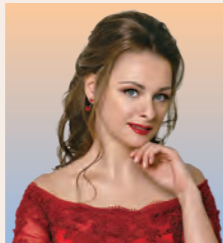
また「クラシックって楽しいな!」シリーズに関連する動画をたくさんインターネットで紹介しているんじゃ! 小さい子はパパやママと一緒に観るんじゃぞ!

YouTube で公開中! [日本大好き! STasha](#) スターシャ歌唱動画

「クラシックって楽しいな!」関連動画 (公益社団法人国際音楽交流協会)

合唱とソロの違い

スターシャ (STasha)
オペラ歌手(ソプラノ)
元グネーシン劇場オペラスタジオソリスト



合唱団とは声楽アンサンブルであり、そのメンバーは指揮者の指揮の下、さまざまな声質で音楽を共同で演奏します。合唱団のこのような定義は、さまざまな情報源で見つけることができます。しかし、そもそも合唱団とは何なのでしょう? 合唱団で歌っているだけでなく、ソリストとしても活動している生徒たちと仕事をするとき、私はいつも重要な質問をします。「何になりたいのですか?」ということです。合唱団に残るのか、将来的にはソリストになりたいのか。なぜなら、これら2つはまったく異なるものだからです。

一般的にソロで歌うことはより難しいと考えられています。なぜなら、ソロで歌う場合、すべての責任はソリストにのみあり、歌っている瞬間にはすべての注意がソリストだけに集中し、すべての欠点や間違いに観客がすぐに気づくからです。確かにその通りです。一方で、合唱団って何人で歌うのですか? 10人、20人、もしかしたら50人以上の大人数かもしれません。そしておそらく音楽に直接関わっていない人たちの多くは、また中には音楽家であっても、「合唱団にはたくさんの人がいるから、全力で歌う必要はないし、

疲れたら適当に休むこともできる」と、考えているのではないのでしょうか? 本当にそうなのでしょう? 答えは「いいえ」です。

ソリストになる前、私は合唱団で歌っていましたが、自信を持って言えます。合唱団は一人一人が重要な組織であり、それらが集合した一つの身体のようなものです。一人の歌手が歌うのをやめると、その身体は体調を崩してしまいます。合唱団において、ある歌手が他の歌手の後ろに「隠れる」ことができるというのは事実ではありません。各声のグループにはそれぞれに存在理由と音楽的意味があります。そして、各グループの構成要員全員が重要で、1人でも曲の学習が不十分だったり、歌っている間に単に休んだり(別の目的のために敢えて休む場合はこれにあたりません)したために、グループ全体が文字通り崩壊する可能性があります。曲がうまく聞こえるかどうかは一人一人の歌手にかかっています。合唱団では各々の歌手は規律、チームワーク、責任感を習い、聴覚と記憶力も養います。合唱団で歌うには、音楽リテラシー、音符を明確にイントネーションする能力、そして他の合唱団員の声を聞く能力など、特定のスキルが要求されます。合唱団では、面白くて美しい音楽をたくさん学ぶことができます。合唱団で歌うことは決して簡単ではありません。場合によっては、長い勉強が必要な非常に複雑なパートもあります。また、合唱団で歌うことは、時には声と身体に大きなストレスを感じます。しかし、これらすべてを含めて、それは素晴らしい芸術です。私は合唱音楽を崇拜し、それを神聖なものだと考えています。なぜなら、その起源は教会にあるからです。

個人賛助会員のごあんない

気軽に一流のクラシック音楽に触れる機会を、日本の隅々にまで提供することを目的に、当協会では1992年から2023年までの32年間で、北海道から沖縄県に至るまで47全都道府県144市区町村において419回のコンサートを開催して参りました(2020年は社会情勢を鑑み全公演中止)。全てのコンサートは、日本政府関係各省庁や開催各地の地方公共団体をはじめ、各種団体、民間企業のご支援等により、入場無料(一部低廉な入場料による公演を含む)として開催することができました。コンサートに参加された国民の皆様

からは、「とても良いコンサートであった」と高い評価を頂いております。また、当協会は平成26年10月に公益社団法人の認定を受け、より活発な活動を目指しているところです。公益法人制度改革を経て、より一層の法人自立が求められている中、この素晴らしい事業の永遠の存続と更なる発展を期して、一人でも多くの国民の皆様方に、個人賛助会員へのご入会を通じて、当協会の活動をご支援頂きたくお願い申し上げます。

【個人賛助会員に関する詳しいお問合せはコチラ】 ⇨ <https://www.imea.or.jp/web/support>

クラシックって楽しいな!
(合唱にまつわるエトセトラ)

制作: 公益社団法人国際音楽交流協会
本願寺
井村屋グループ株式会社
ダイキン工業株式会社
大阪ガス株式会社
影近設備工業株式会社
株式会社大原の里

助成: 一般財団法人日本宝くじ協会
挿絵: 指宿 清
発行: 2024年 12月